

## 学校飼育動物の冬の対策

公益社団法人 東京都獣医師会

寒い冬、自然界のウサギは、巣穴に入って生活します。チャボやニワトリは、原産地が東南アジアであり、元来暖かい地域に住む動物なので寒さには弱いです。11月になったら巣箱を飼育舎に入れて下さい。動物の健康への配慮を行うことで、子どもたちは命の大切さに気付いてくれることでしょう。

### 巣箱

木製が好ましいですが、濡れる心配がなければダンボール製でも大丈夫です。

#### ウサギ（1～2匹用）

- 間口 45 cm、奥行き 40 cm、高さ 40 cm
- 天井は可動式の蓋にして、側面に出入り口を設けてください。
- 出入り口の大きさは、ウサギの大きさに合わせてください。
- 出入り口の目安としては横 10 cm、高さ 12 cm ぐらいです。
- 出入り口が大きすぎると、箱内の保温性が悪くなります。
- 合板はホルマリンガス発生のある恐れがあるため、避けてください。
- 段ボール製の場合、風で飛ばされないよう工夫してください。
- 巣箱の中には新聞紙を敷いてください。
- 毎日蓋を開け、新聞紙を取り替えて糞などを取り除いてください。

#### モルモット

- ウサギと同様

#### チャボ

- チャボの巣箱もウサギと同様です。
- ウサギと同じサイズの箱で、3羽ほど入れます。
- 出入り口の高さは、ウサギより高い 20 cm ぐらいが目安です。

## 防風と防寒

- 風が抜ける場合、飼育舎周囲をビニール（齧られないように）で被い防風してください。
- 4月中旬には必ずビニールを除去してください。
- 小鳥やモルモットなどは、校舎内で飼育してください。
- 夜はダンボールの箱をかぶせ防寒してください。
- 保温のために、小屋の中に藁や新聞紙の裂いたものを敷いてください。

## 栄 養

- 休日にも新鮮な水と餌を与えてください（「命には休みがない」「生きるためには自分の体に合ったものを毎日食べなければならない。人間と同じ」）。
- 小鳥は、一日絶食すると約半数が死亡し、一日半絶食すると全て死亡するので、注意してください。

## 巣箱の事例

事例 1 高さ 50cm の棚の上に巣箱を置いている。ウサギが上り下りする坂道が付けてあります、可動式の蓋とし、中に敷いてある新聞紙を毎日取り替えて掃除します。



別紙 1

事例 2 チャボのための児童制作の巣箱。これも蓋は可動式です。



事例 3 奥が木製巣箱、手前がダンボール製の急場用巣箱です。ダンボール製の急場用巣箱は、防寒対策として、小さな入り口を残して、すべて締め切ります（箱が風で飛ぶと怖がって入らなくなるため、工夫する必要がある）。箱は、壊れたら新しい物に交換します。



\* 休日の飼育活動については、保護者や地域の方が当番となり活動を行っている小学校もあります。詳しくは本会事務局にお問い合わせください。

\* 学校担当の獣医師あるいは、最寄りの会員動物病院が不明の場合は本会事務局にお問い合わせください。

東京都獣医師会 事務局 電話 03-3475-1701